

第67回 毎日書道展中国展

■ 漢字、かな、近代詩文書、大字書、篆刻、刻字、前衛の7部門にわたり、毎日書道展の入賞・入選作品のうち、山口県を除く中国4県の作品や、全国10会場を巡回する毎日書道役員の作品など900点が展示された。今年は原爆投下から70年。惨禍の記憶を継承していくため書に関する文房具などの被爆資料を「閃光の中の沈黙」と題し、初めて展示された。

期日 8月25日(火)～30日(日)
会場 広島県立美術館地下1階県民ギャラリー

■ 開展式

日時 8月25日(火)午前10時から
会場 広島県立美術館地下1階県民ギャラリー

台風15号の九州上陸に伴い足元の悪い中、会場は大勢の鑑賞客で埋め尽くされた。



開展式前会場風景



開展式テープカット



大楽華雪 毎日書道会常任顧問による特別陳列案内



毎日書道展は日本を代表する大書道展覧会です。6日間の開催期間中には、作品の席上揮毫会、さらには特別陳列として、今年は被爆70周年という年に当たり、原爆資料館から大変なご理解とご厚意をいただき資料を約15点ほどいただきました。「書の文房具が原爆に遭ったものは一体どうなるのだろうか」「私の家にもあった硯、文鎮もあった。」これから皆さんにご覧いただく比田井天来先生の作品が「どうしてこんなに残っていたのであろうか？」と、私も涙が出るほどうれしく、感激しました。そのような原爆に遭った書家の文房具類が、遺族の方のご厚意によって、寄贈され大切に保管されています。今までになかった、原爆をうけた書道の文房具の展覧です。

題して「閃光の中の沈黙」としております。この資料は皆様にお渡ししておりますので、中国展ならではの催しですので、どうぞ、何回もこの美術館へ足を運んでいただきたいと思っております。

大楽華雪 毎日書道会常任顧問による作品案内



毎日書道展は全国巡回の書道展であり、漢字かな評議員の作品、今年当番審査員に選ばれたり、運営委員を務められた先生方の作品等、約3000点全国巡回しております。たくさんの作品は、バラエティーに富んでおり、個性を尊重した魅力的な作品たくさんの作品が個性的であるため非常に多様性を持った作品になります。バラエティーに富んだ作品は一人一人の顔が見える作品になっていると思います。

毎日書道展は全国巡回の書道展であり、最高の展覧会でもあります。入賞する人は毎日書道展に出しているんだ、毎日書道展の作家であるということに、自負と誇りを持っていただきたい。若い人は、技術的に不十分なところもあるかもしれませんが、年輪を重ねることでテクニックはできてきますから、今は未熟であっても、これから技術的にもどんどんうまくなっていくと思います。書は筆や墨をもって自分の思いを

紙面に定着していくということです。

その様子を、定着した姿を、毎日書道展のファンの方に、会場に足を運んでみていただく喜び、作家としての喜び、また、見る喜びをお互いにあじわっていただければありがたいと思います。

作品は書いた人と見る人の心とつなぐパイプ役を務めています。「アッ、この作品は去年と違ってこの先生はこんな作品をつくられたんだな、なるほどなあ。」「私はこんな作品を書きましたよ。」と、感じる作品を見ていただければ、うれしいです。

書の鑑賞は難しいことではなく、見た作品を率直に感じるのだと思います。漢字から前衛書まで幅広く作品を網羅しておりますので、それぞれの作品をつぶさに鑑賞していただければ、ありがたいと思います。

三宅華邦 当番審査員として作品解説



このたび 初めて審査をさせて頂きました。

「不転」という文字を素材にして書いてみました。

形をどのようにしたら良いか作品制作で悩みましたが「アンバランスのバランス」を念頭にして書きました。

■ 特別陳列 「閃光の中の沈黙」



森下先生による特別陳列の解説

原爆に遭った書の文房具を原爆資料館へ寄贈して頂きました、森下先生です。貴重な資料を原爆資料館からお借りしてきて今回の展示となりました。こういった書にかかわる硯とか文鎮などもかなりあることを今回知りました。

ここに展示されているものは1部ですが、熱戦、火災により変形していることは、被爆が大変なことであったことを理解してほしいと思います。一つ一つについてはゆっくりご覧ください。



戦禍に遭った文鎮・硯・墨

顕彰式・祝賀会

日時
会場

8月25日(火)午後0時30分～
リーガロイヤルホテル広島・4階ロイヤル日ホール

■ 顕彰式 午後0時30分～午後1時20分

一華会会員では、顕彰式で毎日賞受賞の佐藤光邦さん(前衛書部)・佳作賞受賞の池田竹葉さん(前衛書部)に記念品の授与が、祝賀会では会友昇格者の佐藤光邦さん・箱田恵倫さんが紹介された。

総評



毎日書道展中国展が盛大にスタートいたしました。広島はとりわけ被爆70年という年を迎え、特別な取り組みとして、美術館では特別陳列も行っています。作品は900点の展示に対し、1点1点に力を感じました。とりわけ入選作品の中には入賞に匹敵する、きらりと光る作品がいくつもありました。今年もそのような作品を見つけてまいりたいと思います。

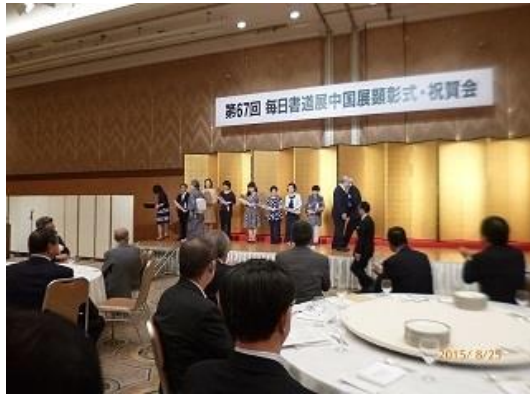
大楽華雪 毎日書道会常任顧問

毎日賞記念品授与



佐藤光邦さん

佳作賞記念品授与



池田竹葉さん

■ 祝賀会

会友昇格者



前衛書部で、佐藤光邦さんが紹介された



祝賀会会場風景

書家による席上揮毫

■ 席上揮毫

日時
会場

8月29日(土)午後0時30分～
広島県立美術館 地下1階県民ギャラリー

高校生の部 (安芸南高等学校書道部)

被爆70年の特別陳列を見て被爆の重さに心を痛めた。この思いを書に託し、平和への祈りをこめて挑戦します。



数年前、高校生が慰霊碑と平和の子の像を現地で採取し拓本にしたものを持参し黙禱後、平和に関する言葉を力強く席上揮毫した。

一般の部



席上揮毫前の会場風景



席上揮毫されるみなさん

一華会会員の佐藤光邦さん(奎星会に所属し今展で前衛書部毎日賞受賞)による席上揮毫



席上揮毫を終えて佐藤光邦さんのコメント

「真実一路」と書きました。今日は皆さまに見て頂こうと思い、思いきって書きました。思い切って書いたら自分自身がいちばん汚れてしまいました。



大楽華雪 毎日書道会常任顧問の講評

前衛書の流れとして、何という文字を素材にして書いたのか造形が変形して文字が読みにくくなったかもしれません。自分の中にこういうイメージを描き、どんな風を書くか、どんな線にするかということが大切です。堂々とした作品になりました。鋭く輝く筆線が見事な作品となりました。



席上揮毫終了後記念品授与